

大牟田市立大牟田特別支援学校

1 本校のE S Dの特徴

本校では、「人権の学びや福祉の学びを通して、人・もの・こと・自然などと自分とのつながりを大切にしようとする態度を育てる」「人権の学びや福祉の学びを通して、人の気持ちや考え方を大切にしたり、自分の気持ちや考えを伝えたりする力を身に付けさせる」ことを重点目標とし、「交流及び共同学習」を核としたE S Dを推進している。

本校における「交流及び共同学習」は、近隣の小学校、中学校、高等専門学校との行事交流を中心に30年以上の歴史がある。その間、「社会の一員として生き生きと活動する児童生徒の育成」「自分らしく積極的に相手に関わろうとする意欲の醸成」「障害のある子どもと障害のない子どもとの相互理解の促進」などの目標については一貫している。近年では地域の人々や保護者の参加も多くなり、交流活動に広がりが見られるようになった。

また、平成24年度より、ユネスコスクール加盟校である新潟県見附市立見附特別支援学校との交流が始まり、お互いの学校紹介や学部紹介、作品交換などを行っている。

平成29年2月現在、国内においてユネスコスクールに加盟している特別支援学校は、本校と見附特別支援学校を含め7校である。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

	小学部	中学部	高等部	訪問教育
学 校 間 交 流	○七夕飾り交流(6月) ○七夕交流(6月) ○なかよし交流(10月) ○合同運動会(11月) ○みんなで遊ぼう交流(11月)	○七夕飾り交流(6月) ○七夕交流(6月) ○合同運動会(11月) ○わくわく交流(10月) ○クリスマス会交流(12月)	○高専音楽交流(9月) ○合同運動会(11月) ○高専作業交流(2月)	○合同運動会(11月)
	○新潟県見附市立見附特別支援学校との交流			
居 住 地 交 流	○子どもの居住地を校区とする市内各小学校			
地 域 交 流	○学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○餅つき交流(12月) ○合同作品展(2月)	○学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○餅つき交流(12月) ○合同作品展(2月)	○やぶつばき交流(7月) ○学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○餅つき交流(12月) ○合同作品展(2月) ○ゆめタウン販売(2月)	○学習発表会(9月) ○サンアビ祭出展(11月) ○餅つき交流(12月) ○合同作品展(2月)

3 特徴的な活動事例

＜「餅つき交流」～大牟田特別支援学校小学部・中学部・高等部と

地域ボランティアの方々との交流（地域交流）～＞

「餅つき」の行事を通して、地域ボランティアの方々や保護者と一緒に楽しい交流活動を計画・実施しており、15年以上の歴史がある。

活動内容については、学部ごとに3日間、地域ボランティアの方々や保護者と一緒に餅を杵でついて、丸めて、食べて交流する。

餅をある程度つくところまでは大人の手で、それからは、子ども一人一人が大人と一緒に杵を持ってついたり、自分で杵を持つことができる子どもは一人でついたりする。

小学部の子どもたちは「もちつき」の歌を歌って餅をつく友達を応援し、中学部の子どもたちは地域ボランティアの方々にお茶を出して接待する。また、高等部の子どもたちは重い臼を職員と一緒に持ち上げて準備をするなどそれぞれの実態に応じて行事に参加して楽しい時間を過ごしている。

蒸したての餅米から立ち上る湯気、だんだんもちになっていく変化、つきたての餅を丸めるときの暖かい感触、まだ柔らかいもちをほおばる時の笑顔、もちつき交流を通して児童生徒は、地域の方と触れ合うことへの喜びを味わうとともに、思いやりの心を大切にするなどの成長が見られ、地域の人たちと温かい気持ちを味わうことができた。

＜新潟県見附市立見附特別支援学校との作品交流＞

新潟県見附市立見附特別支援学校との作品交流については、年に2～3回行っている。

また、校内に交流専用の掲示コーナーを2カ所設置し、見附特別支援学校から送られてきた作品やメッセージなどを多くの方々に見ていただけるよう工夫している。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・天の原小学校、米生中学校において、初めて交流を体験する児童生徒も多かったが、相手校への出前授業や事前交流を設定したことで児童生徒は見通しをもって交流に臨むことができ、スムーズに進めることができた。また、交流体験を積むほど、自ら意欲的に関わろうとする子どもの姿が見られるようになってきた。

○課題

- ・大牟田市の学校再編で今まで交流していた米生中が勝立中と再編され宮原中になる。またより多くの子どもたちに交流することの喜びを伝えていきたい。